

**平成30年度
花巻北高校 野球部 O.B会 総会**

日時 平成30年6月17日(日) 16時～
会場 ホテル花城

次 第 議 程

- 1、開会
- 2、会長挨拶
- 3、議長選出
- 4、議事

第1号議案 平成29年度 事業経過報告、並びに、会計決算報告承認について

第2号議案 平成30年度 事業計画、並びに、会計予算案決定について

第3号議案 役員改選について

第4号議案 会員からの提案について

- 5、その他
- 6、閉会

※ 次の時程で、写真撮影、会員懇親会を開催いたします。

野田
 光之
 子
 水田 敬

17時20分、 写真撮影	17時25分～ 懇談会
第100回 全国高校野球選手権・花北野球部84年 懇親会	
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">次第</div> 開会	
1、会長挨拶	
2、乾杯	
3、来賓あいさつ	八尾 晃一 ・野球部長 長谷川 博之 ・野球部父母会
4、今年の野球部は…	細川 幸希 ・監督
5、出席者から、一言	
閉会	19時30分

敬
 高
 市役所

花巻北高校野球部戦績

H29 春季大会	同 選手権大会	同 秋季大会	H30 春季大会
花巻地区予選 ① 6 :2 遠野高 代表 2 :10 花東 代表 8 :9 花北青 雲高	② 7 :5 宮古商 ③ 11 :1 盛岡一 ④ 1 :5 大船渡 東高	花巻地区予選 ① 10 :1 遠野緑峰 代表 0 :6 花東 復活 7 :0 花巻農 代表 7 :9 花北青 雲	花巻地区予選 ① 1 :10 花東 復活 13 :3 遠野 緑峰 代表 2 :3 花北 青雲

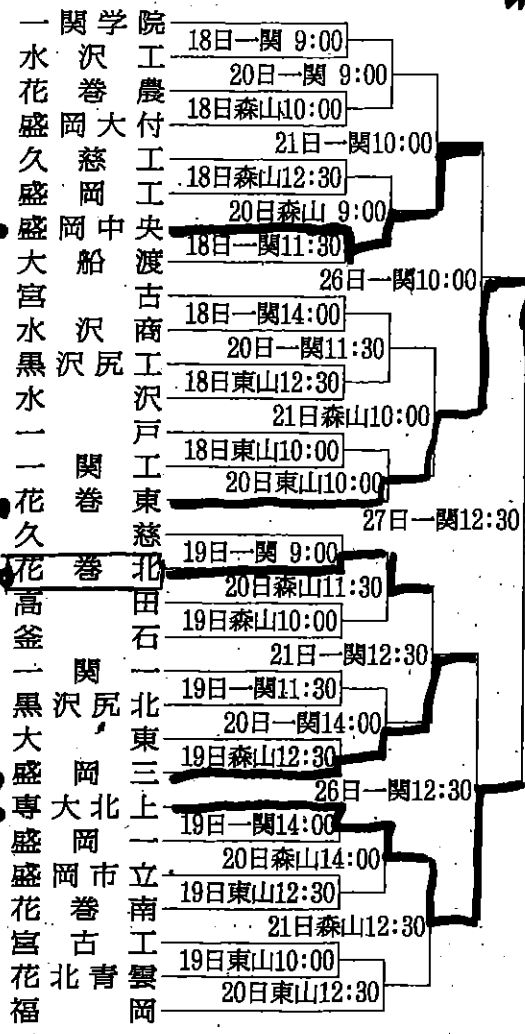
第 70 回高橋杯

・県大会

- ① **10**:1 久慈
 - ② **10**:3 高田
 - ③ **0**:8 盛岡三
- (ベスト8)

■第65回春季東北地区高校野球県大会組み合わせ

球場：一関運動公園野球場(一関市)、金ヶ崎森山総合公園野球場(金ヶ崎町)、唐梅館総合公園東山球場(一関市)



3位決定戦 27日一関10:00

第1号議案 平成29年度 事業経過報告、並びに、会計決算報告承認について

(平成29年度 総会～平成30年度 総会まで)

- 6月10日 平成29年度 O.B会定期総会・祝賀会 (23出席)
- 6月24日 花北野球部 平成29年度支援金 200,000円手渡す
- 6月24日 花北野球部父母会総会、立川目会長出席して今年度の支援金手渡す
- 8月 3日 関東遠征支援金 250,000円を八尾部長に学校で手渡す
会長、事務局長出席
- 8月12日 慶応高校と練習試合を行った (「関東遠征」)
- 13日 千葉県の瀬谷高校と練習試合を行った (同上)
- 10月27日 花北野球部「バット納め」にO.Bチームを結成して準備した。
生憎の降雨のために中止した。O.B会は差し入れをして、若手O.Bチ
ームの面々は現役部員諸君と交流した。
- 12月25日 安部 俊章 氏 (S33) 弔電奉てん (住所; 千葉市)
- 2月23日 卒業する野球部員5名に対して『80周年ピンバッジ』を主将に
- 4月20日 役員会、総会日程、ほか、 (5名出席、おんどり亭)
- 5月 1日 会報『桜雲野球』春号袋詰め作業 (花巻市役所O.B4名)
- 5月 2日 会報発送 (543部) ①会費納入振込用紙、②総会「出欠席ハガキを
130部 (会費納入者、ほか) 同封した
- 6月11日 会計監査 学び学園
- 6月17日 平成30年度、O.B会総会

40
F40

O.B会有志が開催している行事

- ◎12月 2日 O.B会有志「年祝いの会」ホテル花城 (21名) で開催した
- ◎毎年、春 (4・5月)、秋 (10・11月) O.B会有志「ゴルフコンペ」を (新山、
又は、盛岡南) (16名位) で開催しています

平成 29 年度 会計決算承認について

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

収入の部					
科目		当期予算額	当期決算額	増減	備考
会費収入		588,000	453,000	▲135,000	79名、
総会収入		10,000	7,000	▲ 3,000	
雑収入・受取利息		50	13	▲ 37	
その他		5,000	0	▲ 5,000	80周年記念史販売など
当期収入合計	A	603,050	460,013	▲143,037	
前期繰越収入		431,095	431,095	0	H17年/7/1～の信金定期
収入合計	B	1,034,145	891,108	▲143,037	
支出の部					
科目		当期予算額	当期決算額	増減	備考
野球部補助		500,000	450,000	▲ 50,000	前年度、200,000円支援
会報発行費		40,000	46,131	6,131	制作、538部、発送費41,635円・
事務費		5,000	3,162	▲ 1,838	打合せ用紙、コピー、
会議費		50,000	15,000	▲ 35,000	役員会1回
総会費		50,000	25,176	▲ 24,824	H28総会、直前役員会以外
通信費		10,000	0	▲ 10,000	(総会費に、ハガキ20,800円)、
慶弔費		5,000	592	▲ 4,408	弔電1通
交際費		50,000	30,000	▲ 20,000	父母の会、東京後援会旅費
親睦費		40,000	28,000	▲ 12,000	バット納め紅白試合、
雑費		10,000	8,734	▲ 1,266	郵便振込手数料(74名)
予備費		274,145	0	▲274,145	
当期支出合計	C	1,034,145	606,795	▲427,350	
当期収支差額	A-C	▲431,095	▲146,782	284,313	
次期繰越支出	B-C	0	284,313	284,313	信金225,563、郵貯58,750円

上記、平成 29 年度 決算書より、次期繰越金は 284,313 円となります。


花信金定期預金 50,500 円（「創部 70 周年記念事業残金」）も合わせて引き継ぎます。

平成 29 年度花北野球部 O.B 会会計は関係書類の照合の結果、適正であることを認めます

平成 30 年 6 月 13 日

花北野球部 O. B 会

監 事

富山 剛 

同

佐藤 秀 

第2号議案 平成30年度 事業計画、並びに、会計予算決定について

(1) 平成30年度のO.B会事業計画

- ① 部活動資金援助を例年どおりの200,000円とします
- ② 野球部強化を支援する『コーチング・スタッフ』作りや『バット納め』O.Bチームを結成して対戦するなど、『行動する、動きのあるO.B会』を目指します
- ③ 県内外の強豪校や実業団チームのトレーニングや強化策の研究をして、花北野球部強化に協力します。特に、全国各地で活躍しているO.Bの力を活用します。

(2) 平成30年度 収支予算書 (案)

(単位：円) 自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

科目		前期決算額	当期予算額	備考
会費収入		453,000	500,000	100名 (前年79名)
総会収入		7,000	10,000	
雑収入・受取利息		13	20	
その他		0	0	記念誌販売など
当期収入合計	A	460,013	510,020	
前期繰越収入		431,095	284,313	
収入合計	B	891,108	794,333	
科目		前期決算額	当期予算額	備考
野球部補助		450,000	250,000	部活動補助、
会報発行費		46,131	60,000	
事務費		3,162	4,000	
会議費		15,000	30,000	年代代表者会議、ほか
総会費		25,176	40,000	
通信費		0	10,000	
慶弔費		592	5,000	
交際費		30,000	40,000	
親睦費		28,000	40,000	
雑費		8,734	10,000	郵便局手数料
予備費		0	305,333	
当期支出合計	C	606,795	794,333	
当期収支差額	A-C	▲146,782	▲284,313	
次期繰越支出	B-C	284,313	0	

第3号議案 O. B会役員の改正について

(役員を選出)

第2条 本会役員を選出は次による。

- (1) 会長、副会長、事務局長、及び監事は総会において選出する。
- (2) 事務局は会長が指名する。

現 花北野球部OB 会役員

	平成29年まで	平成30年から
会長	立川目 和 義 (46)	
副会長	三 井 信 義 (46)	
同	赤 沼 孝 雄 (50)	
事務局長	阿 部 弥 之 (39)	
事務局	永 本 一 志 (60)	
同	阿 部 力 (63)	
同	古 川 美 香 (H4)	
同	山 影 博 能 (H6)	
同	佐 藤 崇 (H11)	
同	北 山 大 介 (H19)	
監事	富 山 剛 (54)	
同	佐 藤 秀 (H7)	
相談役	高 橋 昭 雄 (24)	
	平 野 祐 一 (25)	
ホームペ ージ 担当者	晴 山 達 也 (H4)	

花北野球部OB会規約

(組織)

第2条 本会は花北野球部OB会と称し、花中・花北の野球部卒業生をもって組織する。

(目的)

第3条 本会は母校野球部の発展のため率先協力し、併せて会員相互の親睦と繁栄を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は前条の目的を達成するため下記事業を行う。

- (1) 本会会員の親睦と繁栄に関する事業
- (2) 母校野球部発展に寄与する後援事業の企画実行。
- (3) 本会会員の内より母校野球部に対する監督・コーチの推薦。
- (4) その他、前掲各号に関連する事業。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 事務局(会計含む) 若干名
- (5) 監事 2名

(任期)

第6条 役員任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(職務)

第7条 会長は本会を代表する。

- 2 副会長は会長不在又は事故ある時は、その職を代理する。
- 3 事務局長は本会の事業を企画運営する。
- 4 事務局は事務局長を補佐する。
- 5 監事は会計を監査する。

(役員選出)

第8条 本会役員選出は次による。

- (1) 会長、副会長、事務局長、及び監事は総会において選出する。
- (2) 事務局は会長が指名する。

(相談役)

第9条 本会に相談役をおくことが出来る。

(総会)

第10条 本会に総会をおき、年1回これを開催する。

(役員会)

第10条 本会に役員会をおき、必要に応じ会長がこれを召集することが出来る。

(経費)

第11条 本会の経費は会費、寄附金及びその他をもって収入とする。

- 2 75歳未満の会員は6月末日までに年会費5,000円を、自主的に納入する。
但し、全会員は周年行事など特別行事への寄付金の要請には協力をする。
- 3 卒業直後から25才までの会員の会費は3,000円とする。卒業時に、前納協力を呼掛ける。
- 4 本会会員に対し、慶弔の場合支出することが出来る。

(会計年度)

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌3月31日とする。

(規約の改正)

第13条 本会の規約は、総会において出席会員の3分の2以上の同意を得て改正することが出来る。

付則 この規約は昭和47年4月1日より施行する。
この規約は平成13年4月1日より施行する。
この規約は平成24年5月12日より施行する。
この規約は平成29年6月11日より実施する

「オオタニ」的哲学

「書く」習慣 考える力に



74年生まれ。雑誌編集者を経て独立。著書に大谷を描いた「道ひらく」、海わたる」など。

佐々木 亨さん

スポーツライター

大谷が高校に入学した頃、から継続的に取材を続けてきました。彼を見に来たあるメジャー球団の日本地区スカウトは当時すでに、サッカーでもバスケットボールでも陸上でも、大谷がこのスポーツに進んでも日本の歴史上最高のアスリートになれると評価していました。彼の身体能力はケタ違いだったわけです。

ただ大谷をよく知る人であればあるほど、運動能力以上に、彼の素直らしさを「内面」に見るのです。身体能力はスポーツ選手だった両親から受け継いだ要素が強いとしたら、彼の思考力や向上心といった内面的な特徴は後天的に身についたと言えます。

両親は小さい頃から、彼の好きなように任せ、おおらかに育てましたが、野球の監督だった父は小学校5年ごろまで息子に「野球ノート」を

つけておきました。毎日試合での反省も課題を書かせ、父親がそれに返答する、いわば野球の「交換日記」です。父は「書くこと」を重視していました。言葉を書き付けさせ、頭に力を入れる習慣をつける。彼の考える力の原点にあるのかもしれませんが。

彼が進んだ花巻東野球部の佐々木洋監督も、「言葉」を重んじる指導者でした。言葉には「丁寧な情報、理論を伝えるだけでなく要素、「言葉」があると言ひ、どんな小さな言葉でも人の人生を左右する方があると考えていました。そんな聲響から大谷が受け取り、自分で長年かけて消化した言葉も多かったと思います。彼が言う「先入観は可能を不可能にする」もそうです。「大谷語録」とも呼ばれる、特徴的な言葉の原型は10代にあるのでしよう。

「頭がいい」と大谷を評する人もいます。「頭がいい」と言ふと、ふつと物事を効率的に処理する論理的思考や、リスクとメリットを比較・計算する力など、歴然と優秀な賢さを想像します。

ところが、彼はむしろその逆です。彼は効率的ではなく、「ほしい」という自分の中で伸びる欲求、「内なる声」にシングルに従うのです。大谷は今行けば成功できるとか、得たかを考えてメジャーに行っただけではなく、「行きたいから行った」のです。成功や失敗は、行つて初めて経験することで、二の次なのです。2年後には巨額な大型契約を結ぶといった計算にも興味がない。その単純な姿勢は決してブレません。

その意味で、彼は私たちの社会が共有している物差し、価値観からは離れたところにいます。子どものときから、言葉を大事にし深く考えることを通じて、彼自身が培ってきた心の強さでしょう。

メジャーで今、フルタイムの勢は野球少年のままです。やりたいからやっている。心から楽しんでいるからこそ、さらに先へと進めるのでしよう。(編集者・中野鉄郎)